

第2回 学校評価アンケート（12月実施）結果より

アンケートの結果から以下のようなことが明らかになりました（数字は肯定的な意見の割合です）。

① 自分に合った勉強法の工夫をしている。

保護者	54.7%	生徒	81.3%
-----	-------	----	-------

→ 7月実施のアンケートと比べ、「そう思う」「おおむねそう思う」と回答する生徒の数の変化はありませんでしたが、保護者の割合としては約5%上昇する結果となりました。授業で学習した内容を家庭での学習習慣につなげ、かつそれが具体的にどのような学習を通じて行われているのかが見える化できるように、單元ごとの学習カードや定期考査時の学習計画表の活用や質問教室等の実施を通して、今後により一層充実させていきます。

② 学校はいじめがなく、安心して楽しく過ごすことができている。

保護者	79.0%	生徒	77.0%
-----	-------	----	-------

→ 「そう思う」「おおむねそう思う」と回答する割合が、保護者・生徒とも約8割となっています。7月と同様、「安心して学校に通えている」と思う生徒が多くいる一方で、保護者としては「あまりそう思わない」「そう思わない」という否定的な回答が2割を超えているという現状も存在します。深い生徒理解に基づく生徒指導を推進し、いじめ撲滅と予防に向け、毎月アンケートを行い、情報収集と早期の対応を図り、保護者との綿密な情報共有を行っていきます。「西東京あったか先生」の取り組みを推進し、人権について考える機会を設けていきます。また、「生活指導だより」などを通じ、学校の生徒指導状況を定期的に保護者に向けて発信していくことを継続していきます。

④ 健康や体力向上に関心を持ち、日々意識して生活することができている。

保護者	69.4%	生徒	80.3%
-----	-------	----	-------

→ 「そう思う」「おおむねそう思う」と回答する割合は生徒が8割を超えており、保護者も約7割となっていますが、保護者の「あまりそう思わない」「そう思わない」の割合が3割となっています。校内での保健体育の授業や、部活動での運動などを通して健康、体力向上のための指導を行っているところですが、それ以外では積極的に運動をする習慣がないという意識が保護者の方々の中にあることが推察されます。今後は、授業、部活動のみならず普段から体を動かすことが健康につながることを、積極的に伝えていきます。

④ ボランティア活動や地域の活動に対して、興味があり、参加しようとしている。

保護者	50.5%	生徒	66.5%
-----	-------	----	-------

→ 「そう思う」「おおむねそう思う」と回答する割合が、生徒、保護者とも全ての設問のなかで最も少なかった質問です。7月実施のアンケートから肯定的な回答が若干増えてはいるものの、ボランティア活動に積極的に取り組もうとする姿勢の定着は図れていないのが現状です。今後も継続して校内でのボランティア的な活動の取り組みを充実させ、さらに社会と関わる姿勢や社会に貢献する意欲や態度を育成していきます。また、朝礼やお昼の放送などを通じてボランティア活動の報告を行い、参加する生徒を増やしていくような啓発活動を継続していきます。

⑤ デジタル技術（タブレット、PC、スマホなど）を使用するときには、使い方のきまりやSNS田無第一中学校ルールを守り、メディアバランスを意識することができている。

保護者	69.3%	生徒	88.0%
-----	-------	----	-------

→ 「そう思う」「おおむねそう思う」と回答する生徒の数は約9割、保護者の数は約7割と、7月実施のアンケートより約1割上昇しました。校内でのDC教育の取り組みを通して、生徒が自身のメディアに対する意識を見直し、よりよいデジタル技術の使い方を一人ひとりが考える機会が増えました。また、保護者の方々にも生徒の取り組みに対してコメントをしていただくことで、学校⇄家庭の相互間の共有を図ることができました。実際にデジタル技術を使用する際にも学んだことや考えたことを反映させていくことができるように、今後も継続して使用状況の振り返りを促していきます。DC教育の取り組みを通して、自他を尊重し、未来を豊かにできる生徒の育成を図っていきます。